

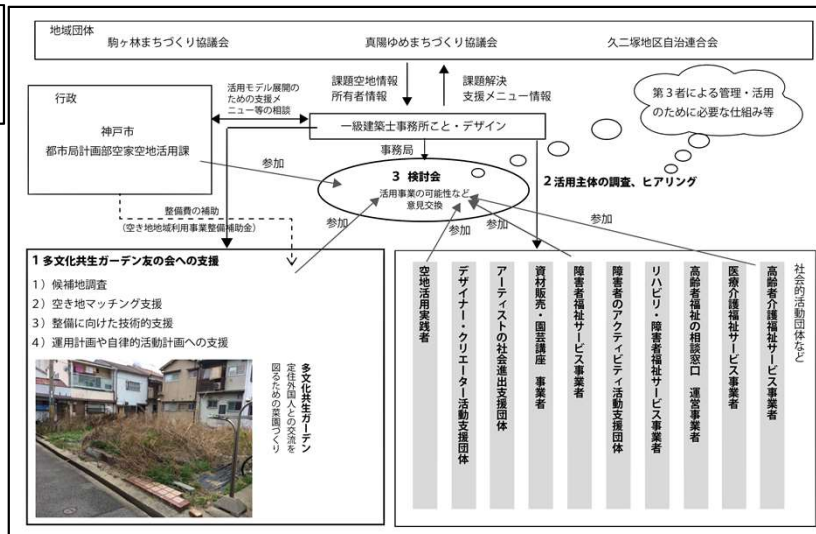
- 空き地を多文化共生ガーデンとして活用する実践事例の中間的支援を行い、所有者や自治会にかわる第3者による空き地の管理・活用モデルを確立
- 活用主体として期待される社会的活動団体に対するヒアリングや、検討会を通じて自立的な管理・活用のための事業スキームを検討

背景
課題

対象地域は、阪神淡路大震災で面的被害をまねがれ、復興事業の網がかからなかったことで、未だ手付かずのままの空き地がモザイク状に点在する。地域の担い手は高齢化しつつある一方で、医療・福祉・文化振興団体、企業、小規模クリエイティブ集団が地域課題に目をつけつつあり、所有者や自治会に代わる第3者による空き地の管理・活用モデルの確立が期待される。

調査
目的

第3者による空き地の管理・活用モデルを推進していくために必要な調査・実施体制の検討を、当地で増えつつある定住外国人との交流を図るための菜園づくり(多文化共生ガーデン)を目指す団体への中間的支援の実践を通して行う。

事業内容
スキーム

1. 多文化共生ガーデン(実践事例)への支援

・団体への中間的支援(候補地調査、空き地マッチング支援、技術的支援、空き地運用支援)を通じて、必要なデータを収集する。

2. 活用主体の調査、ヒアリング

・多文化共生ガーデン以外の実例展開を目指す目的で、地域に存在する多種多様な社会的活動団体に対し、空き地活用の可能性や必要な環境等についてヒアリングする。

3. 第3者による自立的管理・活用に向けた検討会の開催

・今後なるべく補助金のみに頼らない自立的な管理・活用のための事業スキームの検討、空き地活用に関する情報交換や連携のためのプラットフォーム化への下準備を行う。

モデル調査の成果

1. 多文化共生ガーデン(実践事例)への支援

・候補地として管理不全度の高い空き地を検討したが、所有者の探索、無関心、権利関係の複雑化、立地や法規制上の課題(細街路、未接道、再建築不可)等を抱え、課題が複層的に絡んでいることがわかった。

・既にある空き地活用に関する補助金等のコーディネートを行う中で、その手続きの複雑さ煩雑さの解消もしくは、活用者へのフォロー体制の必要性が明らかになった。

・空き地マッチング支援を行い、候補地の一つで多文化共生ガーデンが実現した。整備にあたっては、図面作成、ワークショップの企画を実施した。

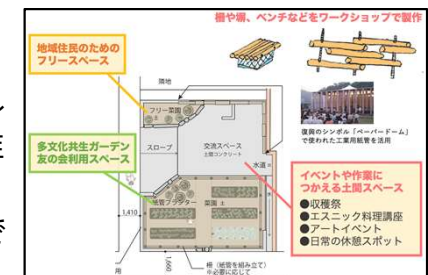
2. 活用主体の調査、ヒアリング

・社会的活動団体同士の連携による解決策の可能性がうかがえた。

3. 第3者による自立的管理・活用に向けた検討会の開催

・プラットフォームで活用者たちのネットワークができれば、相互交流により活用が促進される。

・企業のCSRやEGS投資を得て、「誰でも利用可能な場」を整備し、「地域全体の付加価値」を向上させる。



多文化共生ガーデンの整備計画図(こと・デザイン作成)



多文化共生ガーデンの整備ワークショップの様子